

～・母子保健プロジェクトの歩み～

2008年 母子保健プロジェクト開始  
救急車や医療機器を寄付・・・→  
2013年 母子友好病院を開院(1階のみ)



外務省 草の根・人間の安全保障無償資金による支援

【JICA 草の根技術協力事業】

フェーズ 1  
2015年3月～2017年4月  
フェーズ 2  
2017年11月～2021年5月

【自治体国際化協力促進事業】  
(クリア モデル事業)  
2020年7月～2022年2月  
※オンラインで実施



現在は3階建になり、SNCU(特別新生児治療室)もスタートしている

\*\*\* ネパールの現状 \*\*\*

- ◆医療者による分娩は増加も、研修を受けた看護師の知識、スキル、実践は、未研修の看護師とほぼ差がない。
- ◆妊婦健診率は増加したが、その質は低い。
- ◆産後健診は産褥婦と新生児の死亡を防ぐために重要だが受診率は低い。
- ◆患者の尊厳を尊重し且つ質の高いケアの提供と患者の満足度は低い。

「ネパール政府による2030年に向けた母子保健に関する指針」より

\*\*\* 2月6日 オンラインで開始式 \*\*\*

ポカラの母子友好病院と市役所をオンラインでつなぎ、開始式を行いました。

伊藤市長はじめ、今回のプロジェクトの協働推進グループの長野県看護大学さん、菜の花マタニティクリニックさん、幸助産院さんもネパールとつながってお話いただきました。



# ネパールの風 第6号

2023年2月 発行責任者 小松原繁樹

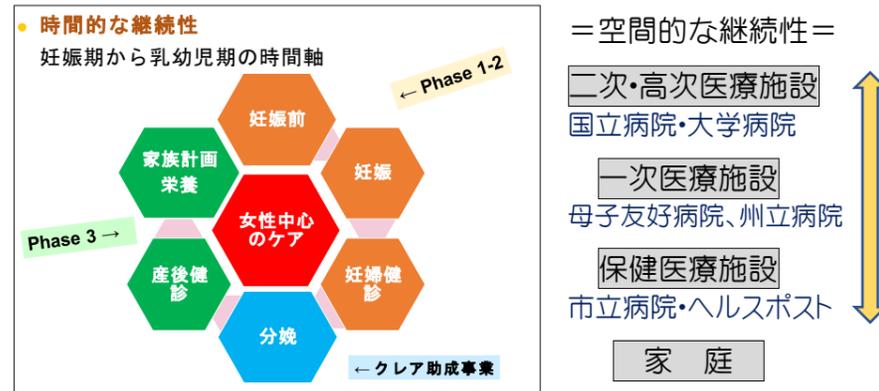
## 第3フェーズが始まります

◆ プロジェクト目標 ◆

**「母子保健に関わるアクターが繋がり、  
妊娠期から産後まで母児を地域で支える  
切れ目のない継続ケアの強化」**

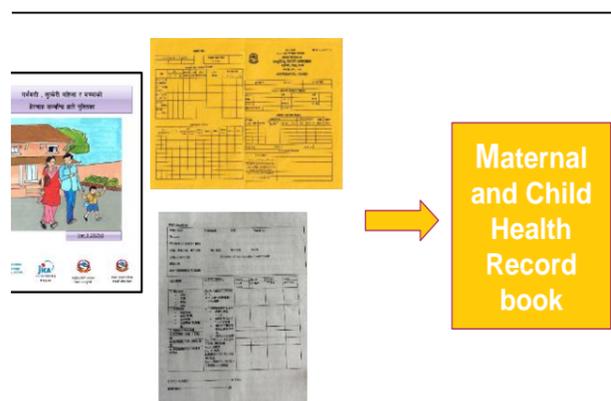
◆ プロジェクト期間 ◆

**2023年1月～ 2025年 6月**



継続的なケアを実現するためには、産前・出産・産後の様子を共有することがとても重要です。日本では、母子手帳があって、医療機関が変わっても、情報を医療者に伝えることが出来ます。驚いたことに、世界では母子手帳のある国はまだ50くらいしかないそうです。

今回のプロジェクトでは、一気に母子手帳の導入へ進めることは難しいので、妊婦健診の記録、乳幼児の予防接種の記録、お産の記録、そしてお産についての情報ノート(第1第2フェーズの取り組み)を一つにファイルし、常に持ち歩くことで継続的なケアに役立つツールにして、普及させようと考えています。



お産を待つ家



ネパールの山間地の村に住むお産を控えた妊婦さんは、友好病院でお産をしたくても移動手段を考えるととても不安です。救急車やタクシーを頼んでも到着までに時間がかかります。もし、間に合っても石がごろごろした山道を車で移動するのはとても危険です。

そこで、第2フェーズより整備を進めてきた『お産を待つ家』が出来、受け入れ態勢は整いました。でも、ネパールで初めての試みです。まだほとんど利用されていません。これから、活用方法を皆さんに広めていきます。

K B M

川手式乳房マッサージを広めます！

これまでも取り組んできた母乳マッサージの指導を深めます。産後母乳が出なかったり、トラブルでおっぱいがパンパンに張って痛くてたまらない、そんな経験をされた方も多いと思います。川手幸子助産師が現地へ行って指導したり、本邦研修の折に日本で指導したり、またコロナ禍ではオンラインで指導を続けてきました。今回は、医療スタッフはもちろんの事、女性地域保健ボランティア(日本の保健補導員の様な方たち)にも指導を広めます。



そこで練習用にたくさんの『おっぱいモデル』が必要です。製作キットを準備しました。※あなたも一つ作ってみませんか？

民 際

皆さんからのマヤがいっぱい詰まった出産祝い品は、ネパールの皆さんにとっても喜ばれています。仲間も増えました。

3月には、メンバーが祝い品をもって渡航します。ネパールの人は頭を温め、ダウンコートを着こみますが、足元は素足のサンダル履きという姿をよく目にします。「妊婦さんは特に足を冷やさないように」という日本の助産師さんのアドバイスでレッグウォーマーの使用を進めています。



まだ、お産婦さん一人ずつに渡せるほどはないのでプレゼントできませんが、レッグウォーマーも祝い品に出来るといいですね。

民際活動で私たちもプロジェクトを応援していきましょう！